

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤に据え自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会で活躍できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「文武両道」、「組織で勝つ」のスローガンの下、人権尊重を柱とした教育実践をする学校
○児童・生徒像	「磨く」、「挑む」、「思いやる」の生徒行動指針の下、自分のよさや特性を理解し、新たに定めた目標を実現しようと努力する、自他の違いを認めそれを尊重する心をもった生徒
○教師像	仕事への責任感と使命感あふれる気持ちを持ち、組織を大切にし、組織で職務に当たり、一人一人の生徒に寄り添い、「やさしく、厳しく」指導できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

生活指導の徹底が基盤となり、けじめと明るさが両立した学校生活である。生徒行動指針「磨く」「挑む」「思いやる」が生徒・保護者・地域社会に浸透し、学習活動や学校行事に熱心に取り組む姿勢が見られる。

(1) 生徒について

目的意識をもち、明朗快活な生徒が多い。しかし一部に、学校生活に馴染むことができず、仲間との関係構築ができずに不登校や教育相談を受ける生徒もいる。

(2) 教職員について

教職員としての職務を理解し、熱心に生徒指導や部活動指導に当たる教職員が多く、強い使命感をもっている。また、「ベテラン、中堅、若手」の年齢バランスのとれた職員構成である。

(3) 保護者・地域社会について

多くの保護者は、本校の教育活動を理解し連携した指導を行っている。しかし一部に教育力の低い家庭があり、生徒の基本的な生活習慣が確立できていないなどの課題もみられる。

地域は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、教育の向上を図っている。特に、PTAはもとより足立九中後援会や「おやおふくろの会」は、教育活動推進で物心両面の支えとなっている。

2 成果と課題

(1) 成果

学習面については、個に応じたきめ細かな指導、定期的な教科コンテスト、土曜スクールや夏季補充授業等による基礎的・基本的内容の徹底、放課後に行うESL等の補習、各種検定取得の推進など、生徒の主体的な学習を促す切れ目のない学力向上策を実施している。

豊かな心の育成については、全員参加の部活動、挨拶等の推進、学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な運営により、生徒の自尊感情や自己肯定感が高まってきている。

体力や活力については、スーパーアクティブスクールとして研究に取り組んでいる。また、部活動においては、文化・スポーツともに多数表彰されるなど生徒の励みとなっている。また、部活動同士で切磋琢磨し学校の活力が高まる中、本年度は陸上部が全国大会への出場を果たした。

小中連携については、小中一貫教育の視点に立った指導を意識し、管理職での検討会を立ち上げるとともに、合同研究や小中教諭のチームティーチングなどを行い、一層推進することができた。

(2) 課題

ア 確かな学力の定着のため、これまでの取組を見直し改善・充実すること、新たな指導体制や仕組みを構築することが課題である。また、OJTやOff-JTの充実など、教員の授業力を高めるためのアクティブ・ラーニング等の有効な指導方法の研修の充実が課題である。

イ スーパーアクティブスクールとして、活力ある生徒の育成や体力向上の実践的な研究をまとめ、足立区や東京都の教育の向上に資する資料を作成し普及・啓発することが課題である。

ウ 保護者等との連携により、生活習慣の確立、家庭における学習習慣の確立、スマートフォン等の使用に関する指導の徹底、自立心の育成などが課題である。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実施期間				
		27	28	29	30	31
1	学力向上（生徒の学力の定着を図る）	○	○	○	○	○
2	健全育成（生徒の心身の健全育成を図る）	○	○	○	○	○
3	小中連携による活力ある生徒の育成	○	○	○	○	○

5 平成29年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上	
A 今年度の成果目標		平成29年度区学力調査 目標通過率（学校平均）	
基礎的基本的な学習内容の定着		目標通過率 65%	
B 前年度の取組み内容			
項目	具体的な方策		
教科の習得状況の向上	数学習熟度別指導、定期的確認テストの実施及び放課後の個別補充指導		
個に応じた指導の充実	考査前考査後指名補充学習教室参加7日		
指導法の改善・充実	教科指導法改善に係る研修4回		
C 前年度の成果と課題			
<p>区学力調査における平均通過率は60.3%であり、本校が目標とした達成基準に4.7ポイント及ばなかった。平均正答率は、区や全国の平均値を上回ったが、定着率が低い生徒や低い教科の改善が課題である。また、生徒の自己評価から、学校での学習に努力した生徒が88.6%、家庭学習を1時間以上行っている生徒が67.6%であることから、学習習慣の確立が課題である。</p> <p>これまでの、習熟度別授業をはじめとする個に応じたきめ細かな指導、定期的な教科コンテストの実施、土曜スクールや夏季補充授業等による基礎的・基本的内容の徹底、放課後に行うESL等の補習、各種検定取得の推進などに加え、朝学習の体制整備や家庭との連携による学習習慣の確立、OJTの工夫・改善による教員の授業力向上等で、生徒の学習意欲を高め、生徒の主体的に学ぶ態度の育成に重点を置いて学力の向上を図っていく。</p>			
D 今年度の目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	具体的な方策	
基礎学力の定着	基礎計算未定着生徒数 20%以下	数学習熟度別指導、定期的確認テストの実施及び放課後の個別補充指導の徹底	
個に応じた指導の充実	区調査 数学通過率 65%以上	数学習熟度別指導の改善・充実と考査前考査後指名補充学習教室7日	
指導法の改善・充実	校内研修年4回以上の実施	教科指導法改善に係る研修4回と効果的なOJTの改善・充実	

重点的な取組事項－２		健全育成
A 今年度の成果目標		達成基準
学校生活の充実・向上		学校充実度調査の「満足」を８０％以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学習活動への意欲	生徒学校生活充実度調査における努力率 ８８％以上	到達度測定テスト等の実施による継続的な努力の評価と励ましの推進
部活動への積極的参加	生徒学校生活充実度調査における参加率 ９０％以上	全生徒対象の部活動説明の実施と１年生仮入部期間の延長による部活動の推進
学校行事の主体的な運営参加	生徒学校生活充実度調査における充実率 ９５％以上	委員会、係活動の立場・役割の明確化と生徒の自主的な運営の推進

重点的な取組事項－３		小中連携
A 今年度の成果目標		達成基準
小中一貫教育の視点に立った活力ある生徒の育成		合同研究・研修の実施、教材等の開発、活力に関する生徒の自己評価８０％以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
小中一貫教育の視点に立った教育活動の推進	教科等における学習の体系化、小中合同による研究の推進、成果検証と小中一貫教育の推進	アクティブ・ラーニングを踏まえた推進委員会を４回、全体会を２回、分科会を４回、授業研究を４回程度実施
円滑な接続のための交流活動等の充実	関係３小学校児童の九中入学者を増員と、中学生による小学校事業への支援・参加	小学校６年生の中学校授業・部活動体験、中学生の夏季休業日における小学校補充学習への学習支援
体力の向上と活力ある生活の推進	運動やスポーツへの関心や体力が高まったと感じた生徒を８０％以上	スーパーアクティブスクールとして、体力向上に関する研究の推進と、関連する教科の授業や体育活動の充実